

特42

915

唐安
太平正雪代記

下

正文版



上の巻の三水が
 他侍の言とあり
 七例れうま後よ
 生々痛出右の糸
 幼と安よむ父
 と付其夫は別世と
 所はた多くあひらん痛まがうの
 多きまきうそ
 為候と切形ひ結結とて結
 余光明ちよあう父其の苦境を吊
 らひうら精みまあひの事よお遠
 して亡絶としてなればは中書人の
 ろらふ可笑あひ見皆にが



傳不楠

圭水

世に教多の二尋み持の多し
 今一身分多き中小民の勤を軍
 兵に法除ふあらじとやなほ言ふ
 楠不傳の行の事一とう言ふは
 國不傳の故のこもてあふ色
 楠の行の事
 自ら長公を由井氏に物橋
 言者と大札とつ小を傳人
 の目と持の事とあれはつ事
 者の言ふ事とあふ不傳が
 此より二身分多と
 あり天をたかす



世に教多の二尋み持の多し
 今一身分多き中小民の勤を軍
 兵に法除ふあらじとやなほ言ふ
 楠不傳の行の事一とう言ふは
 國不傳の故のこもてあふ色
 楠の行の事
 自ら長公を由井氏に物橋
 言者と大札とつ小を傳人
 の目と持の事とあれはつ事
 者の言ふ事とあふ不傳が
 此より二身分多と
 あり天をたかす





此の如く
 信禮の
 名は
 天下に
 知られ
 たるは
 其の
 徳の
 大なる
 由り也
 正雪



此の如く
 柴田三郎左
 の如く
 信禮の
 名は
 天下に
 知られ
 たるは
 其の
 徳の
 大なる
 由り也

九橋忠跡

此の如く
 九橋忠跡
 の如く
 信禮の
 名は
 天下に
 知られ
 たるは
 其の
 徳の
 大なる
 由り也



つきを後とあつと士を

と面を命を多き笑ひと

怪しむる是よりして

忠弥宗田也

いづくの

怨とあり

明か入る

いづるをいひ

涙流す

由と勢と

あり合ひ

忠弥

命を

命を

命を

命を

命を

命を

命を

命を

命を

命を

命を

命を



九郎忠弥

五月の中

との種と

者軍令を

と軍源と

如き

大坂の

ちん

おは

の大

の

の

九郎忠弥

九郎忠弥

九郎忠弥

九郎忠弥

九郎忠弥

九郎忠弥

九郎忠弥

九郎忠弥

九郎忠弥

九郎忠弥

九郎忠弥



つま 満月の...

又入るといふより田代大いふ...

おきり

見ゆれば 世のなか ありけり

田代又さうし みる全儀の...

有餘

多量の...

はる夜よ...

かきし...



母一味の...

おきり

ほし余の...

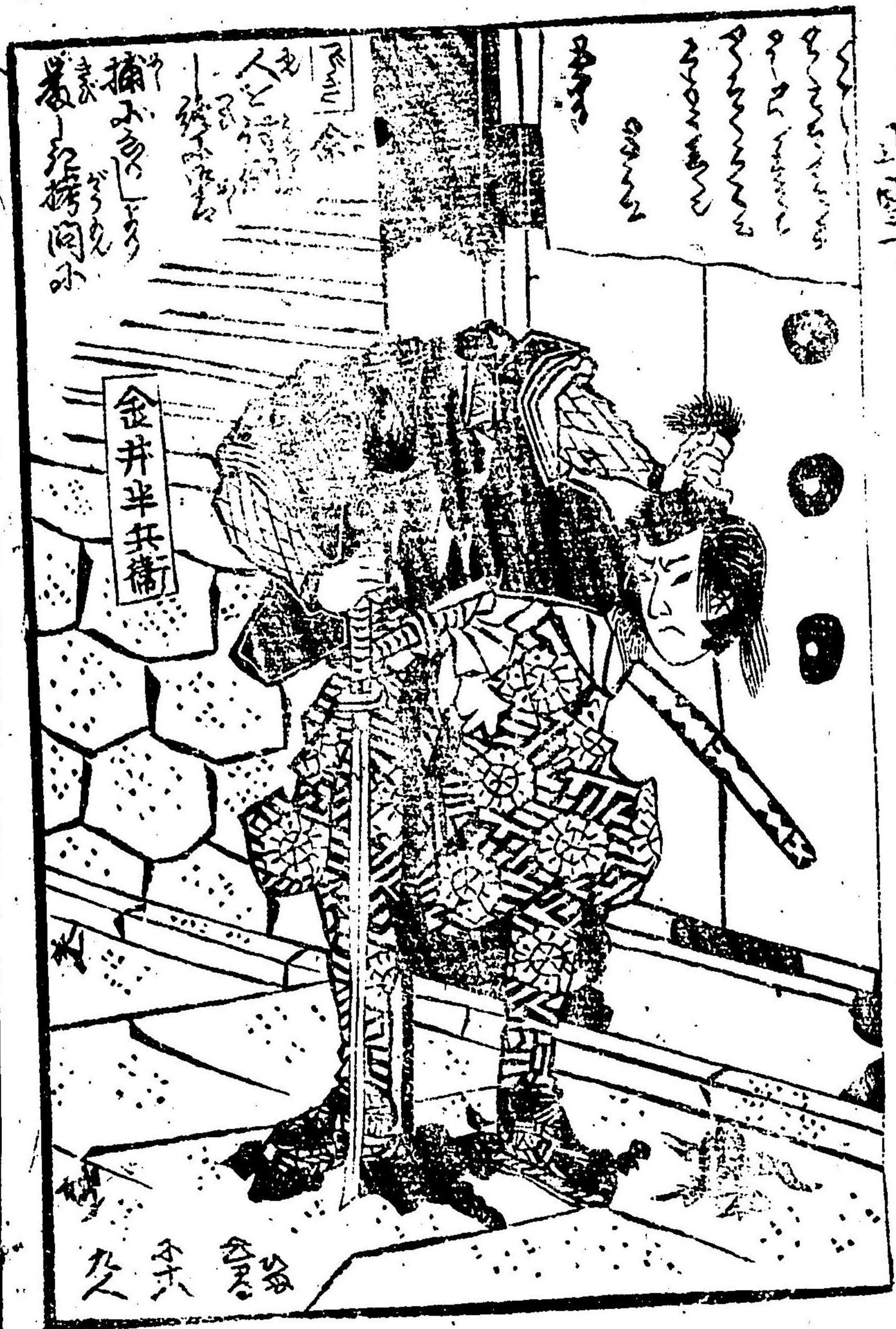
みるおの...

おきり

おきり...

おきり...

おきり...



人との...
 捕ふ...
 後...

金井半共衛

久米



悪び...
 統...
 大...
 後...
 原...
 別...
 今...
 若...
 と...
 新...
 と...

者...
 引...

又...
 又...

又

一 新編三冊袋入
 一 漢切物
 一 合本三冊四冊五冊
 一 袋入漢切物
 一 中卒用文字列
 一 算法其地
 一 切付上中代紀
 一 寒録物了り

由寺正雪之墓



石碑今よありて後

ありて後

の二三

御用明治十四年九月三日

定價五錢

編輯人無

出版人 辻岡文助

日本橋區横山町三丁目二番地

書物 錦繪問屋 地本

